

ひまわり在宅サポートグループ

山田 麻美(介護支援専門員/中央介護支援センター)

- 功 績** 80代の認知症の女性が自宅で一人暮らしを続けたいという願いに対して、石巻市で行なっている「認知症初期集中支援事業チーム員会議」開催の要請をし、その後、市の事業として定期的開催されるよう定着化させた功績。
- 推 薦 者** 木原 千恵 (中央介護支援センター所長)
- 推 薦 理 由** 石巻市における認知症初期集中支援事業チーム員会議を、市の事業として定着させ、市内介護事業所に認知させた功績。

内 容

15年前に統合失調症と診断され、最近では認知機能もかなり低下してきた一人暮らしの女性のケースがありました。早速、山田が自宅を訪問し、本人・長男と面談し、長男からは体調管理の不安・食事がまともに摂れなくなってきたこと・さまざまな事故などの心配を相談されましたが、本人は自覚なく、ケアマネジャーの受け入れも難しかったようです。

山田が訪問を重ねて関係性を築いていくなかで、生活そのものの安全性が担保できないため、石巻市で行なっている「認知症初期集中支援事業チーム員会議」開催を市に対して要請しました。これまで当該会議体は名称だけで稼働していない現状がありましたが、山田は本案件においてはこの仕組みが絶対必要であるとの信念のもと、市役所職員・保健師・内科医師・精神科MSWなど総勢8名のチームを構成し、支援が始まりました。

事業所を超えた支援を、チームで行っていく中、徐々に体調が悪化し、これまで通りの一人暮らしが難しくなってきましたが、ナースインホームひまわりへの登録をし、安定して過ごせるようになっていきました。その後、グループホームに入居が決まりましたがナースインで他人と過ごす環境にも慣れていた為、スムーズに新しい生活に馴染めたようで、現在も元気に過ごしているとの連絡を頂いています。

「認知症初期集中支援事業チーム員会議」について、発足当初は要請があった場合に開催し、メンバーも決まっていなかったのですが、この事例を通して支援の仕方や何をゴールにするかなど、形が見えてきたことから、定期開催でメンバーも市内の関係機関から召集されるなど、市の事業として定期的開催されるようになりました。